

高江ヘリパッド  
移設工事再開

# 「区民犠牲にするのか」

## 説明会、紛糾3時間

【東】東村高江区へのヘリコプター着陸帯（ヘリパッド）移設工事に関し、工事再開の方針が示された1日の住民説明会。「区民が犠牲になってもいいのか」。工事断念を強く求める住民らに対し「移設は県民の負担軽減のため必要」と繰り返す沖縄防衛局。区民の質問は途絶えず、時折やじも飛ぶなど約3時間、紛糾した。会場の高江区公民館には区外からも関係者が集まり、説明内容を注視した。

沖縄防衛局は2008年11月、座り込みを続ける住民らに対する通行妨害禁止を求める仮処分申し立てを

行い、住民の反対があると見ていったん工事を中断していた。住民説明会は3度目。

説明会で沖縄防衛局は、ヘリパッド移設後も住環境への影響を最小限にする（ことなどを強調したが、住民らが夜間飛行や騒音被害への対応を質問すると「米側へしっかりと申し入れる」と述べるにとどまった。あいまいな回答に住民らは「防衛局は信用できない」と強い批判の声が飛んだ。

説明会冒頭には、通行妨害禁止を求める訴訟の住民側弁護団の三宅俊司弁護士が住民側代理人として入場

を求めたが、「住民対象の説明会」として沖縄防衛局側は拒否。三宅弁護士は「裁判をしながら工事を進

めると自体おかしい」と不信感を示した。高江区の仲嶺武夫区長は「区では過去2回の反対決議をしている。その立場は変わらない」と強調。「ヘリパッドいらない住民の会」の安次嶺現達共同代表は「本来なら前政権の裁判を取り下げ住民側と話し合うべきだ。現政権はそれもせず工事を押し進めるのか」と憤った。